

### 畜産事業に対する支援策について

四 竈 英 夫

〔質疑〕農家経営者の高齢化と後継者不足により、畜産事業が停滞している。

畜産事業は、地力増進の観点からも農業の基本であり、振興を図るべきと思う。

本市では、優良雌牛を農家に貸し付け、5年間で雌牛1頭を返還する制度を設けていた。

しかし、最近この事業が停

滞している。

今後ともこれらの制度を継続して、意欲ある農家を育成し、畜産事業の振興を図るお考えがないか。

また、この制度に限らず畜産事業に対してどのような振興策を持っているか伺いたい。

〔答弁〕市では、高齢者等による肉用牛の飼養を促進することによる肉用資源の確保を図るとともに、高齢者らの福祉の向上に資するため、昭和52年度に基金を造成し、肉用牛貸付事業を推進してきた。

しかし、後継者不足等に家族の協力が万全でなくなり、適切な飼養管理ができない等の理由で、新規借り受け希望者がいない状況が続いたために、平成15年度において、この事業を平成19年度限りで廃止と決定をした。

この事業は、大河原管内では現在、本市をはじめ角田市、蔵王町、七ヶ宿町、村田町及び丸森町の6市町で実施されているが、本市のほか蔵王町及び村田町で事業の廃止が決定しており、国においても、三位一体改革により対象事業の財源が税源移譲で地方に移されたことを受け、国費相当分の返還を該当市町に求められているところである。

肉用牛貸付事業については、事業廃止するが、市では、市単独の畜産振興策として畜産

団地造成事業を行っており、この事業により、繁殖素牛及び肥育牛を導入した場合、繁殖用の雌牛は5年、肥育用は1年の期間で、導入に伴う借入金のうち1頭当たり20万円を上限に利子補給を行っている。この制度を活用していただきたいと考えている。

### 定住促進対策について

谷 津 清 夫

〔質疑〕人口減少の歯止めめに、平成19年4月以後、定住目的で、市内に土地を取得して、住宅を建てた方に百万円を限度に奨励金を交付する定住促進対策を、高く評価する。企業立地促進、産業振興、雇用拡大、空き家空き店舗、優良宅地情報、「U-Jターン支援情報サービス」実施と白石蔵王駅を拠点として、岩沼以

南、福島以北を一部視野に開発し、刈田病院を核に、大河原中核病院、公立藤田病院と連携することで医療、文化、環境にやさしくなり、若年層の定住促進になると考えられるが、お伺いをしたい。

【その他の質問】

戦後の教育と郷土愛について鳥インフルエンザについて孝子堂の整備について

〔答弁〕少子高齢化、また人口減少というのは、白石に限らず、地方の小都市の共通の問題であり課題であると思っている。

その中で自然増というのは、この少子化傾向の中で容易なことではないと思っており、

今回、施政方針の中で述べた「4万人都市復活大作戦」のスタートの年と位置づけて、四つの戦略、59事業を挙げて

いる。その一つが、定住促進奨励金であり、赤ちゃん誕生応援

事業であり、休日保育である。昨年の6月議会において議決をいただいた企業立地促進条例も、働く場所づくり、また、「U-Jターン」も、白石に住んでいただきたいという施策の一つである。

白石を知ってもらおう。興味を持ってもらう。白石に住んでもらう。子供を産み育てやすい、暮らしやすい、そのような施策をトータルで考え、実践する一歩を踏み出したところである。

